

2022年度

中国 留学報告書

実習先： 北京師範大学

実習期間： 9月13日 ~12月22日

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21019104
氏名：藤井久美

目次

1. 留学先及び留学期間	3
2. 留学先概要	3
3. 留学目的	3
4. スケジュール	4
5. 時間割	4
6. 授業内容と留学の詳細	5
7. 当初目的・目標への達成度	5
8. 反省点・課題	6
9. 謝辞	6

1. 留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学

実習期間：令和4年9月13日(木)～12月12日(木)

2. 留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は北京市海淀区にある中国の公立大学。北京大学、清華大学、中国人民大学とともに北京四大大学とされており、重点大学に指定されている。40 を超える国と地域の 500 近くの大学や研究機関と協力しており、国際化に力を入れている。

(2) 大学で行われている教育について

様々な中国語レベルの学生が集まっており、レベルごとにクラス分けされ、初級から上級までクラスごとに授業の種類や難易度が異なり、広範囲にわたった中国語の学習ができる環境がある。

3. 留学目的

留学の目的は、自身の中国語のスキル向上のためであった。日本語ベースでない中国語ベースの環境において、今までの学習では不十分であった実践力を身に着けたいということが 1 番の理由であった。そして留学授業を通して聞き取り力の向上、中国語に接する時間を増やすことによってスキル向上を目指したいと思い、この留学に参加した。

4. スケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日	内容
8	23～ 28	各自でクラス分けテストを受験
	31	クラス分け発表
9	13～ 16	授業開始。 クラスの試し聴講期間、別難易度へのクラス移動可。
	19	最終的なクラス決定。成績加算開始。
10	28	听力 中間試験
	31	读写 中間試験
11	2 7	会話 中間試験
12	19	读写 期末試験
	22	会話, 听力 期末試験

5. 時間割

	月	火	水	木	金
16:30～18:10 (日本時間)	读写	听力	读写	听力	
18:30～20:10 (日本時間)	会話	读写	会話	会話	听力

(101 班の時間割)

授業の途中に 10 分休憩が挟まれていた。まれに授業の進行度合いによって休憩なしや 5 分休憩になることもあった。

全世界から留学生が集まっているため、時差の関係上などで各クラスの授業の時間割はバラバラであった。最初に割り振られていたクラスではヨーロッパ系の留学生が多かったため、その時間に合わせた時間割移動などがあった。

1 クラス 10 数人程度で割り振られており、101 のクラスでは日本人、ベトナム人、ドイツ人、パキスタン人が一緒に学習を行った。

6. 授業内容と留学の詳細

<授業概要>

・读写課 リーディング

教科書の文章を読み、問題に回答したり、授業内で出てきた単語や文法の開設、それを用いた文章作りなどを行う。読解力の向上、文章作成、表現力を鍛えることを中心とした授業。

・会話課 スピーキング

教科書の文章を読み、発音確認、正確な発音を重点的に指導。教科書に載っていない話し言葉や表現などを取り上げ、会話ベースで進む授業。授業毎に先生と1対1で対話し、会話能力を上げることができる。また、定期的にパワーポイントを作成し、それを用いて発表するため、興味関心のある分野についての文章表現、フィードバックを得ることができたり、他国の生徒の表現や考え、文化などを知ることができる授業内容であった。

・听力課 リスニング

テキストを中心に用いて発音を確認、関連するテーマの単語や文章を読み、中国のことや他の生徒の国のことについても知ることができる授業の進め方であった。

7. 当初目的・目標への達成度

この留学において、中国語のスキル向上、実践力を身につける、ということが目的であった。実際に授業を受ける中で受け答えする場面において、今まではできなかった訓練の経験を得ることができ、バリエーションも広がったと感じる。そして授業はすべて中国語で進んでいくため、中国語に耳を慣らすことができ、リスニング力の向上もすることができた。

8. 反省点・課題

実際にこの留学に参加してみて、事前の準備をもっとしっかり行っておくべきであったと感じる。授業中に分からない単語や思い出せない単語、文法に引っかかって調べなおすのにかなり時間と労力を使うことになってしまっていたので、事前にできるだけ多くの語彙を身につけておき、今まで学習してきた部分の補強をきちんと行っておくべきであったと感じる。そして、今回の留学はオンラインというイレギュラーな形での実施であったため、オンラインならではのトラブルが起きることがしばしばあった。インターネット回線の影響で音が聞きづらくなったり、途切れ途切れでしか聞こえなかったり、画面が固まったりなど、機器関連のトラブルがつきものであった。中国語は発音がとても重要なので、音声クリアに聞こえないと聞き取るのに授業ではかなり苦戦した。また、実際に現地に行くことができずとても残念であったが、この留学に参加できたことはとても意味があるものだと感じている。これで終わりにせず、これからも中国語の学習を継続していきたい。

9. 謝辞

今回の留学でお世話になった北京師範大学の教員のみなさん、そして新潟国際情報大学の區先生、学務課のみなさん、その他すべての関係者のみなさんに心から感謝します。コロナ禍の極めて難しい状況において、この留学を実現できるようにご尽力いただき本当にありがとうございました。そしてオンラインという形にもかかわらず奨学金を授与していただいたこともありがとうございました。この経験を糧に今後も更なる挑戦していきたいと思えます。本当にありがとうございました。